

香取徹先生退職記念号に寄せて

経済学部長 塩 田 尚 樹

獨協大学経済学部で33年間にわたり教鞭をとられた香取徹先生が、2025年3月末をもって定年退職されます。先生の長年にわたるご貢献に敬意を表し、『獨協経済』本号を香取徹先生退職記念号とすることといたします。

香取先生は、1978年3月に横浜国立大学経営学部を卒業後、1980年3月に同大学院経営学研究科修士課程を修了され、1985年3月に慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程を単位取得退学されました。その後、2011年12月に、慶應義塾大学より博士（商学）を取得されています。

慶應義塾大学大学院で単位取得後、先生は、1987年4月より関東学園大学経済学部専任講師として勤務されました。その後、1992年4月に獨協大学経済学部経営学科助教授として着任され、1998年4月に同教授に昇任されました。獨協大学では、着任後まもなくより、情報センターの運営委員および主任研究員を、それぞれ、何期にもわたって務められ、同センターの解体までその役割を全うされました。また、外国語教育研究所運営委員、図書館運営委員、キャリアセンター委員なども歴任し、本学の研究および教育環境の充実に貢献されました。

研究では、コーポレートガバナンスの諸課題、キャッシュフロー管理会計の手法、ならびに設備投資の戦略的意思決定などに重点を置かれた後、グローバル管理会計へと展開され、企業経営において持続可能な成長と競争優位性を実現する上で重要な知見を提供されました。その成果は、2011年3月に上梓された単著『資本予算の管理会計—DCF法の生成と発展』などにより、公表されています。近年においては、獨協大学の創始者である天野貞祐の教育思想と、それを形作った哲学も探求されました。

教育では、獨協大学経済学部の「上級簿記」・「管理会計論」・「簿記原理」および「演習」に加え、獨協大学大学院経済学研究科博士前期課程および同博士後期課程の「管理会計論」も担当され、学生および院生の指導に尽力されました。私の研究室の二つ隣にあった香取先生の研究室が、毎年卒業式の日、名残を惜しむゼミ生であふれかえっていたことを、今でも鮮明に憶えています。

以上のような長年のご功績をたたえ、2025年4月、香取徹先生に獨協大学名誉教授の称号が贈呈されます。香取先生におかれましては、今後も獨協大学ならびに獨協学園に対し、これまでと変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。末筆ではございますが、先生がいつまでもご健康でご活躍されることを、教職員一同、祈念しております。

